

陸自高等工科学校を卒業し、海自航空学生に入隊 「這いつくばってでも頑張る！」

神奈川地方協力本部厚木募集案内所（所長 酒井一海尉）に、今春、陸自高等工科学校を卒業し、航空学生として海上自衛隊に入隊した隊員の母親から、手紙を頂いたので紹介する。

平成25年4月横須賀市武山に所在する陸上自衛隊高等工科学校の門をくぐり、親子共々不安と期待の中、入校式に臨んだ日が、ついでこの間の事のように思い出されます。花散らしの風雨に耐え私達を迎えてくれた桜と、小田和湾の遥か西に高くそびえる霊峰富士の雄大な姿は、今でも鮮明に脳裏に浮かびます。

思い起こせば、この3年間、息子の口から愚痴や弱音の言葉を聞いた事は一度もありませんでした。とは言え15歳で親元を離れ、分刻みの限られた時間の中で厳しい訓練、学業、部活動等を全力で行う日々の中、思い通りに行かず悩んだり、辛く苦しい時もあったでしょう。理不尽な思いや悔しい思いもしたでしょう。しかし、持ち前の我慢強さと、同期の仲間や周囲の様々な人達の支えで困難に屈する事なく無事卒業を迎える事ができました。お世話になった皆様方には、言葉では言い尽くせぬほど感謝の気持ちで一杯です。武山の地で学び得たもの、同期との絆は息子にとつてかけがえない宝となりました。

そして息子は、この春から海上自衛隊航空学生として新たな道を歩み始めました。将来パイロットになりたいという夢を持ち続け、その夢に一步步近づいたのです。

4月3日の入隊式に出席するため下関市に所在する海上自衛隊小月航空基地に到着し、そこで目にした真っ白な制帽と金色の七つボタンの制服姿の息子からは「這いつくばってでも頑張る」と言って実家を後にした時の覚悟が更に強く揺るぎないものとして私の心に伝わってきました。

入隊式後に挙行された祝賀飛行では、次々と披露される高度な飛行技術を目の当たりにした68期の生徒達が身を乗り出して、飛行機が空の彼方に消えるまで目で追う姿がとても印象的でした。先輩達への尊敬と憧憬の念、そしてこれこそが自分達の目指す未来の姿だと想いを馳せていたに違いありません。

これから始まる新たな世界、母には想像もつかぬ訓練が待ち受けているでしょう。今まで同様、遠くから見守り、励ます事しかできませんが、自ら選んだ道を、同じ志を抱く仲間と共に勇往邁進する事を願います。そして68期生が皆揃ってウィングマークを胸にする日が無事訪れる事を祈るばかりです。

海上自衛隊航空学生68期 岡田和也の母 岡田香苗



入隊日に第1学生舎前で撮影



母と記念撮影

加賀町警察署交通安全キャンペーンで自衛隊をPR

自衛隊神奈川地方協力本部（本部長 松田 辰雄 1等海佐）は、4月15日（金）、横浜市中区山下町にある加賀町警察署の交通安全キャンペーンに参加した。

本キャンペーンは、加賀町警察署が主催し、「春の全国交通安全運動」の一環として、加賀町警察署管内に所縁のあるマスコットキャラクターが参集することで、キャンペーンの目的である交通事故防止気運の醸成に効果を期待するものであり、数々のマスコットキャラクターに交じり神奈川地本のマスコットキャラクター「はまにゃん」が中華街の街を練り歩いた。

沿道には大勢の見物客が詰め掛け、子供から大人まで幅広い年齢層の方々から「かわいい」「はまにゃん はまにゃん」と屈託のない声援を受けたり、多くの住民や観光客が記念撮影に収まるなど、キャンペーンは大盛況のうちに終了した。神奈川地本は、「今後も積極的に広報活動を実施し、地域住民の方々に、自衛隊の活動を理解していただくよう努めていく」としている。

